

播磨町地域福祉計画策定委員会（第1回）議事録

開催日時	令和5年7月18日（火） 午後1時30分～午後3時30分
開催場所	播磨町役場第2庁舎 3階会議室1
出席委員	（11名）
事務局	（10名）
協議事項	<p>（1）地域福祉計画についての説明</p> <p>（2）播磨町における現状と課題（アンケート調査結果などから）</p> <p>（3）地域福祉計画の策定について（基本理念の検討）</p>
会議資料	<p>第1回播磨町地域福祉計画策定委員会次第</p> <p>資料1 委員会設置要綱</p> <p>資料2 委員名簿</p> <p>資料3 地域福祉計画の概要</p> <p>資料4 地域福祉に関するアンケート調査結果</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	1. 開会
	2. 委嘱状の交付
佐伯町長	3. 町長あいさつ 平素は町行政並びに地域福祉行政に多大なる協力をいただき、感謝申し上げます。 委員会を開催するにあたり、町の想いをお伝えすると、平成30年に社会福祉法が改正となり、地域福祉計画を作りたい人たちが集まっていたが、なかなか作成に至っていなかった。ようやく令和5年に策定することとなり、行政が蓄えてきたやる気、10年間の想いを今日思い切ってこの会議にぶつけてくれることだと思ふ。委員の皆様方も、忌憚のないご意見を言っていただき、会議のますます発展と形骸化した計画ではなくて本当に、本気の計画を立てていただきたい。計画の推進に土地が必要であれば、一生懸命探すし、こういうことをしたいという方向性になればできるようにどうにかさせていただきたいと思っている。それは、役場だけではなくて社会福祉協議会も同じ想いである。局長が変わり新しい体制となっている。社会福祉協議会も役場も笑顔のある職場になっており、住民も笑顔になっていただける、そんな福祉行政を進めていきたいと思ひ、そのための業務体制もとっている。 地域福祉計画の策定は、10年越しの夢がようやく叶うことになる。ぜひ町独自の、播磨町の個性のある計画にさせていただき、職員と共にその邁進をしていきたいと思ふので、計画づくりへのご協力をお願いしたい。
事務局	4. 自己紹介 5. 委員長及び副委員長選出 6. 委員長挨拶 7. 副委員長挨拶 8. 協議事項 (1) 地域福祉計画について「地域福祉計画の概要」により説明(事務局)
委員	言葉の使い方について、現在、障がい福祉計画も策定しているが、そこでも「障害」と「障がい」の話が出ている。社会モデルの考え方では、障壁や障害は社会側の問題として捉えていくということで、漢字での書き方をしているところも増えているので、表現を統一してほしい。障がい福祉計画と地域福祉計画で統一してもらいたい。ひらがなを使うのであれば理由を説明してほしい。 資料4ページで、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に作るのだが、活動計画が下位計画になるのか。それとも、作っているところが違うので横出しの連携になるのか。また、成年後見制度利用促進計画や再犯防止計画以外にもその他の計画もたくさんある。関連計画の中には、自殺対策計画も入れてもらいたい。 資料2ページの「地域」の捉え方の階層について、地域という一番のミクロは本人・家族ではないか。播磨町は小学校区とコミセン区が違うので、小学校区にするかコミセン区にするのかも決定してもらいたい。また、一番上が播磨町となっているが、例えば病院や警察、防災も含め、町内だけで収まらないこともあるので、町全域より広域連携がもう一階層あるのではないかと思ふ。
事務局	「障がい」については、町の取り決めでひらがな表記となっているが、障害は社会的障壁であるということを示す良い機会にもなると思ふので、どちらの表現で進めるかは再度内部でも協議する。

	<p>社会福祉協議会の地域福祉活動計画については、連携する計画として捉えている。地域福祉計画で出された課題についてどうアクションをしていくかという計画になるので、含む計画ではなく連携する計画であると考えている。また、自殺対策計画は「はりま健康プラン」のこころの健康に含まれている。その他の関連計画については、もう一度整理していく。</p> <p>また、圏域については播磨町だけで解決する問題はないと思うので、そのような表記を行う。</p>
委員	<p>今後の進め方に関する資料で、内容についてはワークショップ等で引き続き考えるテーマだと思うので、これで決定ではない。</p>
委員	<p>福祉圏域をどう設定すべきかについては、今後、議論を進めていきたいと思う。地域福祉活動計画はあくまで民間計画である。他自治体では一体的に策定しているところもあるが、一体化しているが故に民間計画が発揮できていない場合もみられる。地域福祉計画はあくまで土台、支える基盤の計画となるような計画にできればと思う。</p>
委員	<p>基本理念について、“人と人がつながり”を、“安心してつながるまちづくり”など、「安心」という言葉を入れてもらいたい。</p>
事務局	<p>(2) 播磨町における現状と課題（アンケート調査結果などから）について「アンケート調査結果」により説明（事務局（SRC））</p>
委員	<p>他自治体と比べて播磨町の特徴はあるか。</p>
事務局	<p>まず、地域福祉に関するアンケート調査では、他自治体に比べて回収率が高い。また、まちづくりへの参加意向が、若い人ほど高いのは播磨町の特徴だと思う。</p>
委員	<p>関われるなら関わりたいと思っている人はたくさんいる。取り組むべきことを情報提供してもらえれば、頼まれれば参加するという人は多いと思う。</p>
委員	<p>学校ボランティアも同じ傾向がある。</p>
委員	<p>潜在能力はすごく高い。良い人も多く、世話焼きな人が多いように思う。その中で育っているので、子どもたちもそういう子が多いように思う。また、子どもの下校時にも何となく見てくれている人が多い。交通安全の旗でも、自主的にしてくれている人がいる。</p>
委員	<p>シニアの方がされているのだと思う。また、町内で進めている見守りカメラについては、それぞれの自治会で必要なところの要望を出して設置をお願いしている。</p>
委員	<p>熱い想いのある自治会長もいる。他自治体では、よく嫌々している人も多いと聞くが、播磨町では積極的だと思う。</p>
委員	<p>他自治体では自治会行事が嫌、役員になるのが嫌で、マンションに引っ越し人も多いという話はよく聞く。住民として、町内会・自治会活動も積極的に参加されている印象がある。</p>
委員	<p>自分の周りの人は、地域と関わりがある方が子育てしやすいという考えの人が多く思う。</p>

委員	<p>自主防災組織やお祭りなどの自治会活動において、地域内での顔合わせをしている。自治会に入らない人も多いが、自分の地域では、どうして入らないのかと聞きに行き、説明をしている。自治会には長く入ってもらわないといけないので、話をして説得している。</p>
委員	<p>そういう人を発掘していかないといけないと思う。</p>
委員	<p>上の年代の方たちがすごいので、次の担い手がいないのか。</p>
委員	<p>下の世代は、自分たちが生きることに関心が高い人が多いと思う。行事や会合にしても、土日とかでないと、平日にあると参加できない。でも、意識が高い人は多いと思う。昨年度のワークショップでもみんな熱い思いがあった。播磨町が好きなのは多い。アンケートでも、暮らしやすいと回答した人が9割以上もあるのは高いと思う。町のことが好きなので、町のことについて何かやりたい人も多いと思う。</p>
委員	<p>子どもや高齢の福祉意識は高いのに対して、障害などの意識が低いのはよくある傾向だと思う。相談窓口の認知度が低いことについてはどうか。</p>
委員	<p>若い層への周知については頑張っているが、必要と感じた時に調べて、その時に地域包括支援センターが出てきたら良いと考えている。直面しないと知らないことは仕方ないのではないかな。相談したい時に来てもらえるようにしていきたい。</p> <p>自治会加入について、10年前と比べると認知症の高齢者も増えてきており、高齢の方からは、どう自治会を抜けたら良いか、役をやりたいといたった相談も聞いている。高齢者には役がまわってくる怖さもあると思う。</p>
事務局	<p>(3) 地域福祉計画の策定について（基本理念の検討）について説明（事務局）</p>
委員	<p>ワークショップでは、つながりについての意見が多かったと思う。顔見知りが多いけど、需要と供給で考えた時の必要性のつながりはできていない。結局、顔見知りに留まってしまっている。</p>
委員	<p>つながりを持っている人はいても、派閥などで溶け込みにくいところがあるのではないかな。団体でも派閥があり、仲が悪いので連携できていなかったのだろう、とか。</p>
委員	<p>中立の立場で、“ふんわり”真ん中に入る人がいれば良いと思う。</p>
委員	<p>どこにも属さないような立場の人。</p>
委員	<p>そういう人の配置にお金をかけてほしい。ボランティアで実施している人は多いが、それでは疲弊してしまう。それだけの熱意を持ち続けるのは大変なので、限られた人しかできない。そこに金銭面での支援があれば継続できると思う。仕事をしていたらお金は入るけど、まちづくりの活動にはお金が入らない。お金が入らなければ、普通に働く方が良いので、町の活動が続かないのではないかな。頑張った人には頑張ったご褒美が町から出れば継続できると思う。</p>
委員	<p>よく中間支援機能と言われるところだと思う。</p>
委員	<p>積極的に関わっていくことは、支援している側もだんだんしんどくなってしまっているので、俯瞰してものが見れる人がいれば良いと思う。情報を取っていくた</p>

委員	<p>めには必要ではないかと思った。</p> <p>暮らしやすさの評価として、暮らしやすいと回答した人が92.3%いるが、答えてくれた方々がどういう状況にあるかということも見ていかないといけないと思う。9割以上の方が暮らしに満足しているが、何の支援も受けていない人は5割いる。そういう人たちの中にもきっと色々な不安があって、特に30～50歳代では自分の両親の介護や子育てもあると思う。実際に困っている方もつながりを持てるような仕組みが必要だと思う。アンケートの結果は、1,000人を対象として回答は半数程度なので、町全体の評価をするのは難しいと思うが、支援を受けていない人が50%以上いる。障がいを持っている方からの意見も拾っていかないといけないと思う。</p>
委員	<p>アンケート結果をみると、助け合い・支え合いにつながる活動に66%の方は参加していない。播磨町も都市化してきていると感じた。播磨町は交通の便でも暮らしやすく、コンパクトな町で利便性も高い。昔なら都市と田舎での情報格差もあったが、今は情報も全国展開されている。どこに行くにも動きやすい。住みやすさの評価は、横のつながりやまちづくり活動などではなく、そういう点での評価もあるのではないかと。都市化している裏側には、つながれるのであればつながりたいという、飢えている部分があるのではないかと。そういう意味でもこの計画は必要だと思う。</p>
委員	<p>暮らしやすい反面、支援につながっていないというのは、全国的な問題でもある。ワークショップに参加している人は元気な人、地域福祉に関して意識のある人だと思う。実際にまちづくりの活動をする、しんどいので、できれば自治会活動はしたくないという人も多い。参加しにくい人が参加しやすくなるためにどうすれば良いか。インクルーシブ、どうつなぎとめられるかを考えていくことが必要だと思う。</p>
委員	<p>播磨町は住みやすい町とよく言われる。色々な話を聞いて、住民と接する機会があるが、播磨町で住んでいた人が戻ってきたり、世帯を分けて引っ越している形が多く、他から移住している人が多いわけではないと思う。また、地域とのつながりについては、コロナ禍でおろそかになってしまっている部分もある。播磨町では、民生委員の選任が67人だが、10人足りていない。全国的にみても10人も欠員がいる地区は珍しい。本当に地域のつながりを持ちたい人が多ければ、民生委員の欠員がないはずだが、役が与えられるのは嫌だとか、そういうところもあるのではないかと。民生委員は、上限は70歳までだが、若い人の年齢制限はない。若い人でも民生委員に興味がある人はいても、なかなか実際には活動できない。時間の制限もあるのかもしれないが、若い人にも民生委員になってほしい。</p>
委員	<p>行政から、せねばならないことを求められるところもあるからではないか。若い人が参加してみたいのは義務感ではない。「せねばならぬからやります」ではなく、「やりたいこと」をやりたい。民生委員や自治会のアップデートをしていかないといけないのかもしれない。</p>
委員	<p>自分も、民生委員や社会福祉協議会などについては、地域活動に顔を出すようになってはじめて知った。おそらく、普通の住民は、それぞれ何をやっているか分かっていないと思う。メリットやデメリットも含め、内容を分かっていないから担うこともできないのではないかと。図書ボランティアも、立候補した時は参加人数が少なかったが、年を追うごとに増えている。口コミで広がっているのだと思う。活動も、内容を知ればできる人も増えていくのではないかと。思う。</p>

委員	ハードルが高そうに見える。
委員	自分は以前、民生委員にならないかと誘われたことがあったが、介護や家のこともあり仕事を辞めた。家で仕事をすることで、時間を自分で決められるようになったが、今は物価も高く、お金も必要になる。周りで認知症の方や気になる人もいるので、地域のつながりに関わる活動はしたいと思う。情報窓口について、困った人しか探さないという意見があったが、困ってないから探さないではなく、困ってからでは遅いと思う。先に知っておかないといけない。播磨町には赤ちゃんへの支援はすごくたくさんあると感じているが、一方で、小学校高学年以降の居場所が本当に少ない。0～3歳児の支援にはすごく力を入れていると思うが、幼稚園・子ども園に入った頃からの支援が少ないように思う。
委員	その話は自分もよく聞いている。
委員	連帯が抜けていると思う。
委員	総括すると、地域のターゲット層として活動層が固定化されている。住みやすい地域ではあるけど、つながっていない。活動をしている人たちが固定化されている。参加していない層への参加促進については、どこをターゲットとしていくのか、イメージをどうつくるのかが大事だと思う。参加できていない人やつながっていない人も参加できる計画としていくことが必要だと思う。
委員	例えば、認知症の方がどんな心配事を抱えているのか、地域で支えられているのか具体的なことが分からない。
委員	ボランティアという話もあったが、民間企業の方が計画に関わることも必要ではないか。その人たちも動きやすい計画が地域福祉計画だと思う。ボランティアの人ばかりに負担にならないように、コーディネーターの役割が必要だと思う。我が町のことは嫌なところもあるけど良い町だと思うという回答が多いが、これだけで播磨町＝良い町とするのは危険だと思う。何も困っていないくて相談窓口を知らない人が多い。人生100年時代と言われていて、長く生きると60%くらいは認知症になると言われている。福祉とは無縁ではないことを周知していく必要がある。福祉も障がいのある方や認知症の方だけではなく、認知症初期の人では、何かがおかしいと感じてこられる人も少なくない。
委員	何かしらつながっている人は病院に直接来る人も多いと思うが、それ以外の人は、地域包括支援センター経由でケアマネから連絡があると思う。孤立の人がどうかで状態像は違うものなのか。
委員	逆に本当に認知症が進むと、ある日突然来なくなる。自死、孤独死などの例もある。医療機関としては、なぜ来ないのかと個人の生活には干渉できない。
委員	アンケートに答えていない人たちはどうなのか。「気になる世帯はない」が7～8割となっているが、近所付き合いの少ない人が多いから困っている家庭がないのではないのか。知らないから気になる世帯がない。近所は気づいていても、自治会にも入っていないから声かけづらいといったこともあるのではないのか。
委員	つながる場につながれていない人も。
委員	民生委員が見守りをしている中で、子どもの連絡会等もあり、情報交換は社

	<p>会福祉協議会と実施しており、そこでつながる部分も多く、そこでの情報も共有しながら活動している。</p>
委員	<p>配偶者が相談者の場合、配偶者が亡くなると途切れることが多い。</p>
委員	<p>高齢者夫婦世帯で、配偶者が入院したり亡くなったりで独居世帯になるケースがある。配偶者の入院など、隣近所に言ってくれない場合も多く分からない。隣近所での交流があれば良いが、隣近所の付き合いが町内すべてでできるかという、信頼がないとなかなか難しい。隣同士での付き合いをこれからどんどん積極的にしていけないといけないと思う。隣近所からネットワークが広がっていく。デジタル媒体だけでなく、顔を合わせて声かけしていくことが大事だと思う。計画では、具体的な行動指針を出していけないといけないのではないかと思う。</p>
委員	<p>つながり方をどうしていくか。</p>
委員	<p>アンケートは一つの大きな指標として必要だが、本当に福祉政策の必要な方はアンケート結果には出てこない。マイナーな部分、本当に支援が必要な人が何を求めているのか。</p>
委員	<p>さまざまな福祉関連計画の上位計画になるので、それぞれの現場で出てくるマイナーの意見を挙げていけないといけないと思うが、連携・関連について体系の中にどう入れていくかだと思う。</p>
委員	<p>資料の4～8ページはこのまま計画に書かれるのか。表向きは「我が事・丸ごと」と書かれているが、社会的孤立や社会的排除といった言葉が出てこない。社会的に包摂していくこと、障がいの有無に関わらず住民全員がメンバーであるという意識がないのかと思う。また、地域福祉計画はこれから大事になると思うが、誰がコーディネートしていくのか。本当に動かしていこうと思うのであれば、コーディネートしてくれる人が必要だと思うが、そのことも文言として出ていない。7ページでも、地域生活課題のことが抜けている。基本理念はこれから検討していくのだと思うが、元気で豊かな人からの目線のように感じる。実効性のある計画にしてもらいたい。</p>
委員	<p>次のワークショップまでに、可能であれば、例えばマイノリティの方がどうしてもらえば生き生きとした生活ができるのかを聞いてもらえるとありがたい。民生委員や社会福祉協議会なども、どういう形の支援があると動きやすいのか、そういう感性を持っておかないと話に入っていけないように思う。</p>
委員	<p>障害福祉のアンケートや高齢介護の日常生活圏域ニーズ調査などの分野別計画の調査結果などから拾うと良いと思う。</p>
委員	<p>重要な意見をいただいた。声なき声、意見を出せない人など、マイノリティの方をどうインクルーシブしていくのかについて意見をいただいた。</p>
事務局	<p>(4) 今後のスケジュールについて (事務局より)</p>
事務局	<p>9. その他 10. 閉会</p>